



JP8206049

Biblio

Page 1

Drawing



WASHING UTENSIL WITH RUBBER GLOVE

Patent Number: JP8206049

Publication date: 1996-08-13

Inventor(s): NAGAI RYOKO

Applicant(s): NAGAI YOSHISUE

Requested Patent: ☐ JP8206049

Application Number: JP19950051689 19950201

Priority Number(s):

IPC Classification: A47L13/18; A41D19/00; A47L17/00

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To prevent a hand from being roughened by a detergent, save labor of taking a sponge upon putting on a rubber glove, and enhance the washing efficiency by furnishing a water shielding at the wrist part of the glove, and consolidating the sponge with the glove in the tip part of the water shielding.

CONSTITUTION: A water shielding 1 is furnished at the wrist part of a rubber glove of mitten type, and a sponge 3 of mitten form is provided at the foremost of the water shielding. That is, the sponge 3 is put on the glove, and they are overlapped and fastened together. At service, a right or left hand is set from the mouth 2 of the glove, and a detergent is applied to the sponge to perform washing. This permits preventing the hand from being roughened with the detergent and saving the labor of taking sponge upon putting on rubber glove.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-206049

(43) 公開日 平成8年(1996)8月13日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 L 13/18				
A 4 1 D 19/00		H		
A 4 7 L 17/00		Z		

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-51689

(22) 出願日 平成7年(1995)2月1日

(71) 出願人 595035979

永井 美季

大阪府高槻市天神町1丁目4-5-101

(72) 発明者 永井 良子

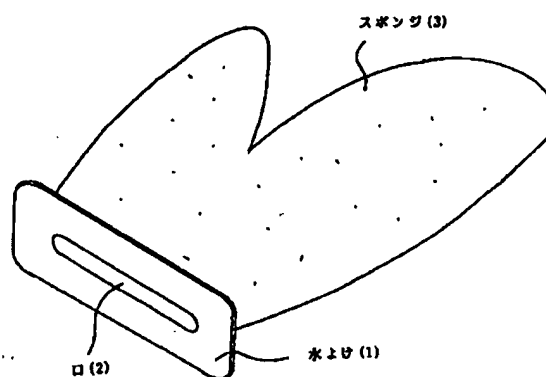
三重県阿山郡島ヶ原村11295-293

(54) 【発明の名称】 ゴム手袋付き洗浄用具

(57) 【要約】

【目 的】 本発明は、洗剤による手荒れから、容易に手を護ることのできるゴム手袋とスポンジを一体化させた洗浄用具を提供する。

【構 成】 ゴム手袋(4)に水よけ(1)を設け、その上にスポンジ(3)をかぶせて固定し、一体化させることを特徴とする。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゴム手袋（4）の手首部分に水よけ（1）を設け、ゴム手袋（4）とスポンジ状のもの（3）を一体化した洗浄用具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、食器を洗うときや車・窓などを拭くときに洗剤から手を保護するため、ゴム手袋とスポンジを一体化した洗浄用具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、ゴム手袋と洗浄用スポンジはそれぞれあり、手荒れが気になる人は、ゴム手袋をしてからスポンジに洗剤をつけて使用していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ゴム手袋をしなければ洗剤で手が荒れ、かといって、わざわざゴム手袋をするのは面倒で、ゴム手袋を置いておくものじゃまになっていた。本発明はこれらの欠点を解決するためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 ミトン型のゴム手袋（4）の手首部分に水よけ（1）を設ける。そして、ミトン型スポンジ（3）を設ける。そのゴム手袋（4）の上から、スポンジ（3）をかぶせ重ね合わせ、ゴム手袋（4）とスポンジ（3）を固定する。本発明は、以上の構造よりなる洗浄用スポンジである。

【0005】

【作用】 本発明を使用するときは、ゴム手袋（4）の口（2）から、右手または左手をいれ、スポンジに洗剤を

【0006】

2

【実施例】 以下、本発明の実施例をのべる。

（イ） ミトン型の薄手のゴムからなるゴム手袋（4）を設ける。

（ロ） ミトン型のゴム手袋（4）の手首部分に、少し厚手のゴムからなる水よけ（1）を設ける。

（ハ） ゴム手袋と同じミトン型で厚さ1～2cm程度のスポンジ（3）を設ける。

（ニ） ゴム手袋（4）の上から、スポンジ（3）をかぶせ、重ね合わせる。

10 （ホ） ゴム手袋（4）とスポンジ（3）を耐水性のある接着方法で固定する。

本発明は以上のような構成よりなっている。本発明を使用するときは、ゴム手袋（4）の手首部分に設けた口（2）から右手または左手を入れ、そのままスポンジ（3）に洗剤をしみこませ、食器を洗ったり、車・窓や家具などを拭く。

【0007】

【発明の効果】 本発明を使用することによって、洗剤による手荒れを防ぐことができ、ゴム手袋をはめてからスポンジをもつ手間が省ける。また、スポンジを手袋型にしたことにより、より力をいれて細かい部分を磨くことができるようになる。また、ゴム手袋の手首部分に水よけを設けることにより、洗っているときに水や洗剤が手首からたれてくる心配がない。

【図面の簡単な説明】

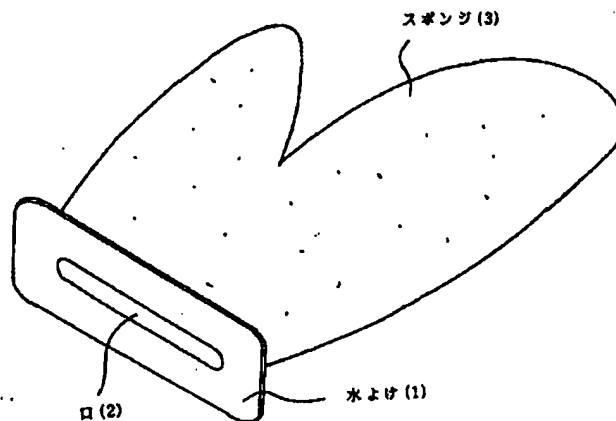
【図1】 本発明の斜視図

【図2】 本発明の分解斜視図

【符号の説明】

1. 水よけ
2. 口
3. スポンジ
4. ゴム手袋

【図面1】



【図面2】

